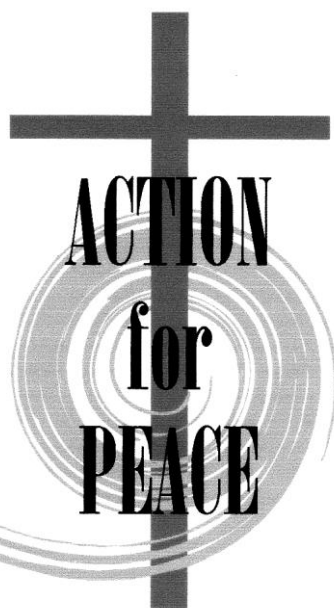


日本バプテスト連盟
憲法改悪を許さない
私たちの共同アクション

ニュースレター

2015 年 6 月 24 日 No. 32

さいたま市南区南浦和 1-2-4 日本バプテスト連盟



5.2 バプテスト憲法フェスティバル・開会のあいさつ

憲法改悪を許さない私たちの共同アクション委員長 藤澤一清

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」と、私たちの主イエスは約束してくださっています。私たちは、いまここに主イエスの名によって集まっています。ですから主は、いまここに私たちと共におられます。その主が、「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」と呼びかけてくださいます。祝福の言葉です。

ところで私たちは、平和という言葉を目にして日本の現実に向ける時、戸惑いや疑い、また不安や怒りを覚えます。きょう私たちは、それらのものをここに持ち寄ってまいりました。そして平和への願いや祈りを一つにしようとしています。その私たちのわがに、それが二、三人というほどの小さなことであっても、主も共にいてくださり、そしてあなたがたは幸いであると祝福してくださる。ですから、この集まりは、憲法改悪反対集会であると同時に、フェスティバルつまり祝祭なのです。

この際、私たちが住んでいる「この世」に目を向けなければなりません。そこは主も生きておられる場なのです。いま安倍首相は米国を訪問し、日本の軍事国家への道を認知してもらうように活動しています。安倍さんは、会談や講演や演説で、戦後日本は平和国家の道を歩んできたことを胸を張っています。そうでしょうか。昨年のこの集会の挨拶で私は、日本は朝鮮戦争やベトナム戦争で経済復興をし、社会もそして教会も潤ったことを自分の身近な体験を通して紹介しました。戦争はある人々にとっては儲かることなのです。安倍さんの経済政策つまりアベノミクス

と戦争のできる国とは一体なのです。私たちは、そういう安倍さんの詭弁をすでに見抜いています。

さらに安倍さんは、米国でも「積極的平和主義」という言葉を使いました。安倍さんが言う平和とは、テロを軍力で抑え、日本の経済活動を妨げる障害を武力で排除し、近隣国からの圧力には軍備拡張で張り合うというものです。早くも軍需産業を中心とする日本の大企業は歓迎し、そのための準備を始めていると、マスコミは伝えています。

「積極的平和」について調べてみると、それは、貧困、飢餓、差別などの意識や構造を変える思想や行動という意味で用いられる言葉で、世界で広く理解されている共通概念です。安倍さんも同じ言葉を使いながら、内容は全く違います。これも安倍さん流の詭弁です。

主イエスは、武力や戦争で平和を実現しようとする人々に、また平和を求めて祈り願う私たちに、「わたしを見よ」と、十字架に釘づけられたお姿で問いかけておられます。私たちの平和への祈りと行動は、そこが原点です。

さらに過去の戦争に至る歴史を学んでいる者は、現在は戦争前夜のように感じ、緊張した思いに駆られます。敗戦直後、平和憲法が実施されましたが、その最初から保守勢力は、企業の労働組合を潰し、教科書の歴史を修正し、マスコミの政権批判を封じてきました。次は何でしょうか。宗教です。私は、戦争中の教会を子どもの目で見ました。礼拝においては、皇居の方向に向かって最敬礼つまり天皇礼拝をしていたこと、また参加者の少なくなった礼拝堂の後部座席に若い二人の特別高等警察官が座り、腕組みをして監視していたことなど、そんな情景が頭に甦ります。そこで語られる説教では、「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」という主イエスの言葉は語られても、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」という主の言葉は封印されました。つまり「この世の支配者」は、主イエスの口を封じました。また教会も「この世の支配者」に合わせて主の口を封じ、戦争に協力しました。教会は、主に対して大きな罪をおかしました。私たちの平和への願いや祈りは、私たち教会の罪をすべて背負い、十字架上で悲しみ苦しむ主イエスのお姿から始まります。

では、私たちはどこに祝福を、また平和への希望を見ればよいのでしょうか。

私たちは信じます。主イエスは、平和を実現しようする私たちから離れられないことを。「あなたがたはわたしによって平和を得る。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」と語りかけながら、祝福への道を、私たちの先頭に立ち、私たちと共に歩み、私たちを後押ししてくださることを。

祈りましょう。

主よ、私たちをこのフェスティバルに招き、平和実現の道を示し、祝福の世界にいざなってくださったことを感謝いたします。ここに集められた私たち一人ひとりを祝福してください。それがどんなに小さなわざであっても、あなたが共にいて勇気をお与えください。この時、私たちを、平和の実現を祈り求め、行動している同信の友らとつないでください。またこの国や世界のあちこちで平和を求めてたたかっている多くの市民たちとも連帯することができるように、私たちを導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン

憲法改悪を許さない私たちの決意表明・交読文

2015 年バプテスト憲法フェスティバル版

いま、政府自民党は、日米防衛指針（ガイドライン）を改定し、集団的自衛権の行使容認、自衛隊派兵の恒久法化、文官統制の廃止、など戦争ができるための法整備を着実に進め憲法改悪への道をひたむきに突き進んでいます。

私たちは、これら全ての改憲の動きに反対し、そのために祈り、行動することを決意します。

私たち教会は、かつて戦前・戦中に犯してしまった過ちを心に刻みます。天皇を神格化し、日本を神国と信じ、アジア近隣諸国への侵略戦争を正当化していった時代の中で、私たち教会はそれに迎合し荷担していきました。神ならぬものに膝かがめ、教会の保身を選んでしまったのです。

近隣諸国にもたらしたおぞましい惨劇、そして日本各地での空襲、沖縄戦、ヒロシマ・ナガサキなどの悲劇を経て日本が敗戦に至ったとき、私たち日本の教会も同様に破綻し、自らの生き方に敗北したのです。

そして制定された「日本国憲法」。それは、「主権在民」「基本的人権の尊重」「戦争の放棄」を柱とする新しい世界への招きでした。

人間の生命・人格の尊重と、平和をつくりだす人となること。本来なら、教会が、聖書の真理として解き明かさねばならなかったものでした。日本の教会は、「日本国憲法」に問われていたのです。

しかし、まさにその時、日本の教会を問い、悔い改めを迫り、和解を成し遂げよう

とする神の御心のために、なおも教会を招き続けていたのは、平和の主、イエス・キリストご自身でした。私たちは、「戦後」70 年を歩んできました。そして、今再び問われています。

「あの時の招きに応えて生きているか」と。「神を神として畏れ従い、それゆえ人間世界の諸力に身を屈せず、神の義に立ち、平和をつくりだすものとして生きることができているか」と。

「日本国憲法」は、決して古い思想や枠組みではありません。

人と人が共に生き、社会をつくる原理とビジョンを映しています。それは世界の人々が認めるところです。

戦後の日本の歴史もそれへの途上であり、その道を歩もうとしたときに平和は少しずつではあっても享受されました。

ですから「日本国憲法」は、決して「現実」に即して修正・廃棄されるべきものではなく、そこに向かって歩もうとするときに輝くものなのです。

戦争はしない。戦争はしてはならない。それが、主イエス・キリストに従う私たちの道です。

それゆえ、私たち教会は、しても良い戦争があるかのように考え、戦争ができるようにする憲法改悪を許すことができません。

私たちは、自らの戦争責任を心に刻みます。

私たちは、これからも、国民主権、人権の尊重、戦争の放棄を堅持します。

私たちは、国家による宗教の政治利用、教育への介入に反対します。

私たちは、集団的自衛権の行使、特定秘密保護法の制定、そしてあらゆる戦争準備のための法整備に反対します。

私たちは、「日本国憲法」が改悪されないために祈り、また連携し、行動します。

“わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。

何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。” フィリピの信徒への手紙 3 章 1 2 節

※この交読文は、2013 年 11 月 15 日、日本バプテスト連盟第 59 回定期総会で採択された「憲法改悪を許さない私たちの決意表明」をもとに作成しました。